

平成26年度 公共事業再評価調査

1. 再評価調査

(区分) (国補)・県単

事業名	治水事業 [基幹河川改修事業 (国補)]		事業箇所	甲府市城東3丁目～5丁目	地区名	藤川	事業主体	山梨県
	当初計画	現計画	今回見直し予定			再評価時の評価状況 (平成21年度再評価) 当初計画では、現状9m ³ /sの流量を1/50の治水安全度である80m ³ /sまで高めるため河川断面を拡幅する計画としていたが、再評価時には近年、最大の浸水被害が発生した平成12年9月の豪雨に対応できる程度の規模に見直し、25m ³ /sを流下可能な規模に計画変更した。近年のいわゆるゲリラ豪雨に対応するため、特に人口が密集している地域において、発生確率の高い豪雨に対しての治水対策の実現性・即効性が高いものと判断され、計画を妥当とした。		
計画期間	H18年～H27年	H18年～H26年	H18年～H30年					
総事業費	2,400百万円	1,400百万円	2,446百万円					
(1) 事業の概要								
事業目的及び効果 甲府市岩窪町から甲府市中心部を流れ、城東地区で濁川に合流している藤川は、流下能力が低いことから、これまで豪雨時には何度も氾濫し、家屋等に多大な被害を与えてきた。このため河道拡幅による浸水被害の軽減を図り、その後の多様な工法で氾濫の防止に努める。								
浸水実績 H10年 9月15日～16日 床上浸水 1戸 床下浸水 33戸 H12年 9月12日 床上浸水 31戸 床下浸水 67戸 H16年 10月21日～22日 床上浸水 22戸 床下浸水 54戸 H23年 9月21日台風15号 [東光寺都市下水流域での道路冠水]								
事業概要 全体計画施工延長 L = 400m 計画流量 25m ³ /s 計画規模 再度災害の防止(平成12年9月豪雨)								
全体計画								
	平成25年度まで	平成26年度 (評価実施年度)	平成27年度以降					
工事内容	護岸 : 140m 函渠 : 230m 用地補償 : 一式 測量設計 : 一式	護岸 : 50m						
事業費	1,250百万円	150百万円	0百万円					
特記事項 なし								
(2) 評価項目 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]								
地域・住民の意向状況 平成23年の台風15号時には、改修済み区間と未改修区間について洪水までの余裕に差が出たことから、未改修区間の改修を進めるよう地元の期待が大きい。								
産業・経済情勢 なし								
国等の方針変更 なし								
上位計画・関連事業計画等の変更 なし								
自然環境条件等の変化 なし								
その他 なし								
(3) 評価項目 [再評価時点の費用対効果分析]								
<ul style="list-style-type: none"> 事業採択時計画における事業全体B/C(平成17年度) 便益(B) / 費用(C) = 9,780百万円 / 2,050百万円 = 4.77 > 1.0 再評価時計画における事業全体B/C(平成21年度) 便益(B) / 費用(C) = 3,106百万円 / 1,248百万円 = 2.49 > 1.0 再々評価時計画における事業全体B/C(平成26年度) 便益(B) / 費用(C) = 3,633百万円 / 2,859百万円 = 1.27 > 1.0 (国土交通省治水経済調査マニュアル(案)により算出 採択基準値1.00以上)								

2. 再評価調書

(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]

計画変更等の概要

平成21年度再評価において、当初計画より改修断面を狭くし、近年の豪雨に対応できる程度の規模の断面に計画を見直した。その結果、用地補償費を低く抑えることが可能となり、総事業費も低くなった。また、施工工程についても当初計画より短くすることができるため、完成年度も1年間短縮した。

施行済みの事業内容

	現計画 平成26年度迄	実施 平成26年度迄
工事内容	護岸 : 190m	護岸 : 140m
	函渠 : 230m	函渠 : 185m
	用地補償 : 一式	用地補償 : 一式
	測量設計 : 一式	測量設計 : 一式
	地質調査 : 一式	地質調査 : 一式
事業費	1,400百万円	2,046百万円

進捗率

施工延長	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
計 画	9%	45%	57%	71%	88%	100%
実 績	28%	49%	58%	70%	73%	77%

算出方法

計画：計画施工延長/総施工延長×100

実績：実施施工延長/総施工延長×100

再評価年度

H26は実績見込み

事業の進捗が順調でない理由

平成21年度再評価以降、重点的に投資し、平成23年度までは計画を上回る進捗であったが、平成24年度の施工の際、函渠工の支障となる埋設物があり進捗に遅れが生じ撤去費が増加した。

また、函渠工の基礎地盤が軟弱であることが判明し、地盤改良が必要となり、年間工事量が減じたことによって工事期間を要することになり、地盤改良費も増加したことによる。

今後の事業執行上の問題点

残事業区間の施工計画について、最上流の屈曲部の施工は通学バス等の通行確保のため2カ年に分け施工する必要があることから、事業期間が延長する見込みである。

また、国道部の施工は、複数回の交通切回しが必要となり、仮設道路等の設置のため工事費が増加する見込みである。

今後の事業の進捗の見込み

工期を4年間延長し、平成30年度の完成を目指す。

事業計画の変更の見込み・可能性

内容	事業費	備考
地盤改良工事費	180百万円の増	地質調査に伴う対策工事の増
埋設物撤去工事費	60百万円の増	歩道橋基礎の撤去工事の増
仮設工事費	366百万円の増	国道部等施工時の仮設道路等の増
用地補償費	440百万円の増	地下埋設物の移設補償費等の増
合計	1,046百万円の増	

(5) 評価項目 [環境への配慮]

本事業箇所は市街化され、自然環境への影響は少ない。

(6) 評価項目 [コスト縮減の可能性]

なし

(7) 評価項目 [代替案立案の可能性]

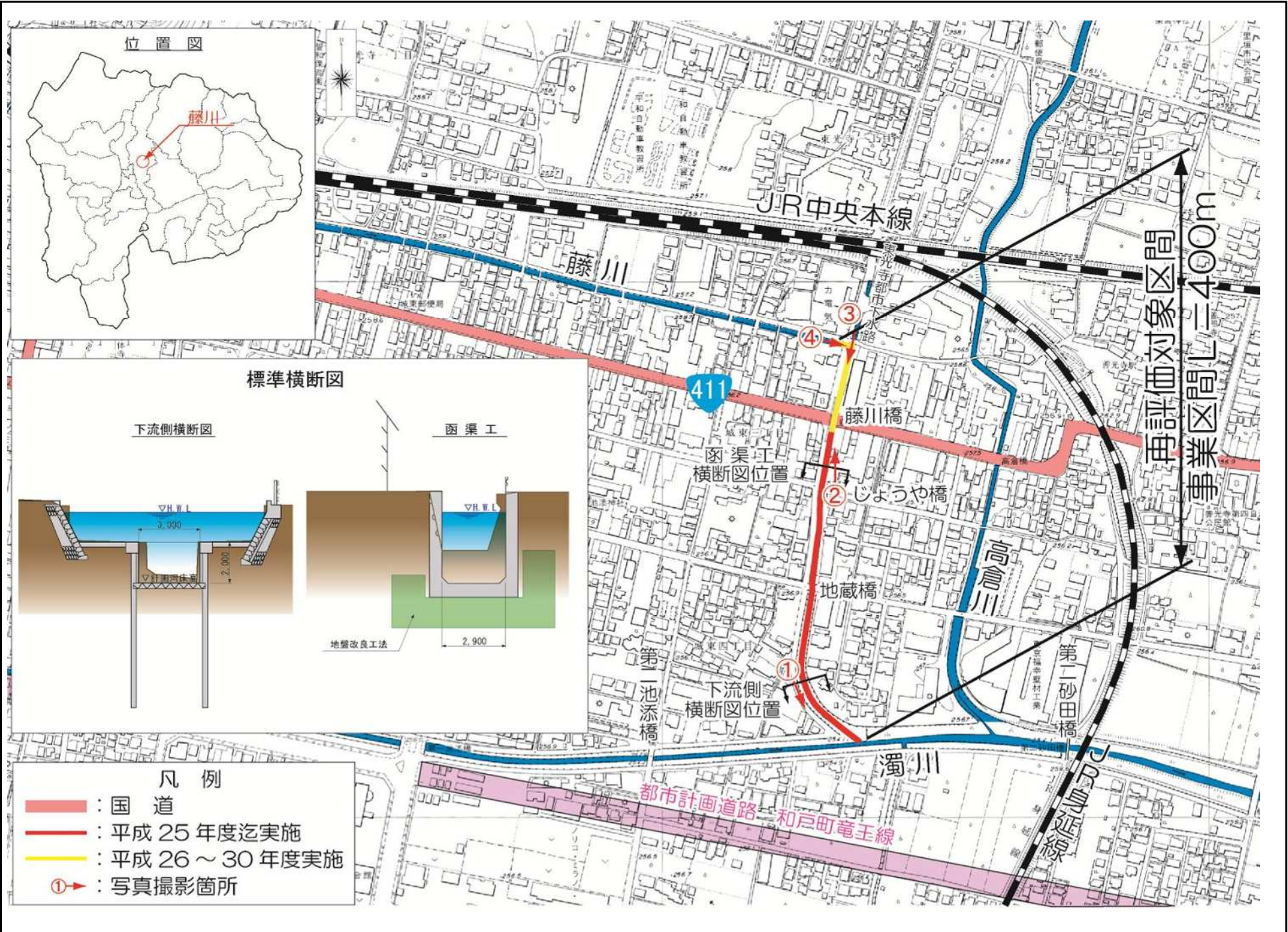
なし

(8) 所管部の今後の方針 継続・見直し継続 その他 ()

(理由)

浸水被害解消のため、事業期間を4年間延長し事業費を増加して事業を継続する。

3. 添付資料シート(1)



添付資料シート(2)

現況等写真

写真 (下流端から約50m地点)



写真 (下流端から約250m地点より上流側の様子)



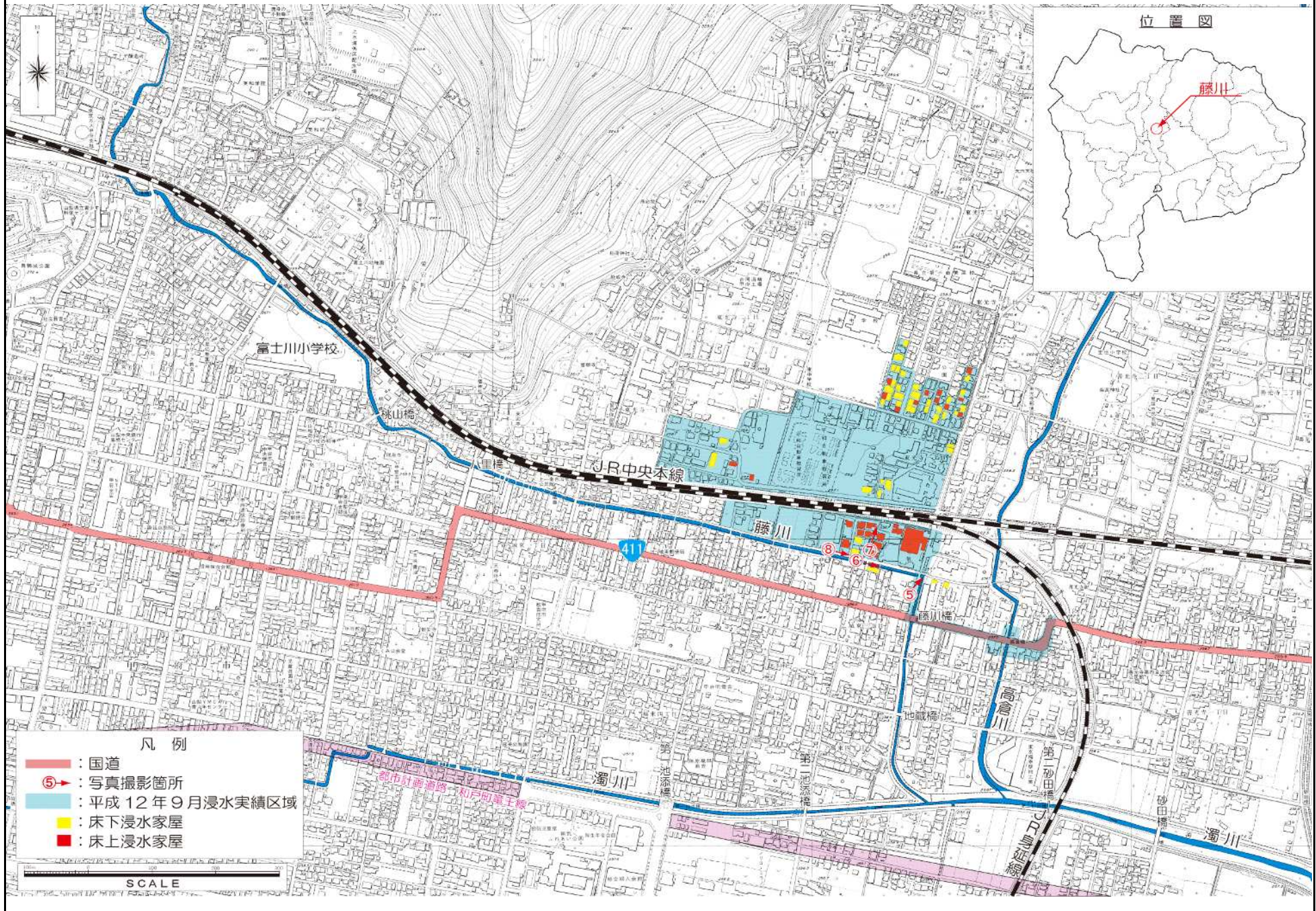
写真 (屈曲部より下流側藤川橋の様子)



写真 屈曲部の様子 (下流端から約400m地点)



添付資料シート(3)
 浸水実績図(平成12年9月)



添付資料シート(4)

平成12年9月洪水出水状況

写真 下流端から400m地点屈曲部の様子



写真 下流端から500m地点より下流の様子



写真 下流端から500m地点の北側宅地の様子



写真 下流端から540m地点より下流の様子



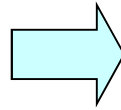
添付資料シート(5)

参考写真

事業着手前



じょうや橋下流の写真



完成後



平成23年台風15号の際の出水状況写真

国道上流 未改修区間



国道下流 改修済み区間



年度別事業費内訳表

年 度	見直し後事業費（千円）	事 業 概 要
H18	30,000	測量業務一式
H19	30,000	詳細設計一式、地質調査一式、用地測量一式
H20	30,000	詳細設計一式、地質調査一式、用地測量一式
H21	162,000	護岸工L=120m、詳細設計一式、用地補償費一式
H22	340,000	護岸工L=20m、函渠工L=65m、用地補償費一式
H23	337,000	函渠工L=40m、用地補償費一式
H24	646,000	函渠工L=50m、用地補償費一式
H25	221,000	函渠工L=15m、用地補償費一式
H26	200,000	函渠工L=15m、用地補償費一式
H27	150,000	函渠工L=20m
H28	150,000	函渠工L=25m
H29	75,000	護岸工L=25m
H30	75,000	護岸工L=25m
合計	2,446,000	